
お題消化（返信シンドローム）

鷹野こえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お題消化（返信シンドローム）

【Nコード】

N2323F

【作者名】

鷹野こえ

【あらすじ】

淡々と、呪いにも似た症候群。あながち社会風刺と言っても的外れではないかもしれませんが。貴方も返信シンドロームにかかってませんか？傍から見れば、指が勝手に動いてしまうかのごとく狂ってる。

「ねえ知ってるー？山西主任がさー」

「うっそマジで？」

「キツモー！」

きやはは、と女子特有の甲高い笑い声をあげる5，6人の女子生徒。
けたたましい。何で一々煩くするんだろう。

あいつらみたいな奴らは、こそこそ集まってはキーキーと猿の様に騒ぐ。

唯独りで黙々と弁当を食べ進める自分は、この昼休みの時間明らかに浮いているのだろう。

それで構わない。
寧ろその方が嬉しい。

あんなに鬱陶しい奴らと同類なんて寒気がする。気付かれない程度に睨みつける。今丁度きやあつ、と沸き立ったところだ。

苛立たしげに手元の携帯電話を見た。
12時51分。

ああもう。
さっきから1分しか経っていない。

早くチャイムが鳴って欲しかった。
休み時間が大嫌いだった。

授業中は知らぬ者同士の様な顔してるくせに——そうでない場合もあるが——終わった途端、わっと集まる彼女達は、先程も述べたがさながら猿だ。

そこへ味気のない電子音がする。
手元の携帯電話から。

メール：誰からだろう。

独りのほうが気楽でいられるため、進んで誰とも一緒にいないのだから友達と呼べる者はいない。

それが寂しいかと訊かれると、全くと答える他ない。わらわらと群れて行動する奴らのほうが気が知れない。

メールは知らない人からだった。

内容は全く言葉が足りないくらい簡素で、たった一行。
「メールしませんか」

はいしよう、なんて返事するバカがいるのか。まじまじとそれを見つめる。スクロールしても続きはない。

——バカらしい。

チェンメの類かな。
ぱちん、と音を立てケータイを閉じた。

ちらりと目をやると、12時52分。
あと3分。

そのメールのことは、記憶の隅に置き去りにした。

夜、また浮上させる羽目になるのだが。

そう、いつもの憂鬱な時間を終わらせ（もちろん学校のことを差している）部屋でぼんやりしてる時だ。

またも味気のない電子音がした。

ケータイを確認すると、あれだ。

「メールしませんか」

私はいくらか解放的な気分になっていた。何故なら学校という集団生活の中から抜け出しているのだから。だからこのメールに昼ほど反抗的な気分を持つ事はなかった。

メールしませんか。

それは、煙草とかお酒とか、あるいは麻薬と似たような魅力を持っていた。

よくわからないのだけれど。

私は人と関わることで自体あまり好きではないのだから、正気だったのなら魅力を感じることはなかった。と思う。

つまり、私はその時、あまり正気ではなかったのだろう。

「しましうか」

感覚の話だが、指は勝手に動いていた。

送信。

しかして、しばらく待っても何も起きなかったのだからすぐに興味を失った。

ベッドに倒れこみ考えた。

自分らしくない行動をとったことが、すこし違和感だった。これが始めの合図。

翌朝からだ。「メール」が始まったのは。

本当に他愛のないことを簡素に並べ立てるだけだった。

「今日からよろしくお願いします」「メールですね、よろしく願います。」

「返事がもらえるとは思いませんでした」「私も思いませんでした」「今日はちょっと憂鬱です」「何故ですか?」「あなたは意味もなる憂鬱になることってありませんか?」「いいえ、ありますね。でも学校が理由に憂鬱なことがよくあります」「そうですか。あなたは学校が嫌いなんですか?」「あまり好きな人は少ないと思います。学校は騒がしくて嫌です」「色々な人が集まりますし。賑やかですよね」

「私はその賑やかさが苦手です」「なるほど。授業が嫌いなわけじゃないんですか?」「授業はまだいいです」「集団生活が嫌いってことですか?」「そんなところですね。いけませんか?」「いいえ、いけないとは思いません」

「すみません。苛付いてました」「いいですよ。何かあったんですか?」「学校は苛付く事がたくさんあります」

「そうですね。じゃあずっとメールしてましようよ」
「そういうわけにもいきませんよ」「何故ですか?」「何故とは?」
「何故そういうわけにもいかないんですか?ずっとメールしてれば
いいじゃないですか」

あれ?

「「ずっとメールしてませんか。」」
「ずっと、ずっとずっと、」「ずっとメールしてましよう?」「ね、
そうしましうよ!」

あれ?あれ?

「はい、そうしましう。」」「メールしましうか。」」「ずっ
と、ずっと」「ずっと、ずっとメールしてましようか。」」「ずっ
とずっと、ずっとずっとずっとずっとずっとずっと、ずっと。」
「私、もうケータイがなきゃ生きていけないかも。」

あれ?あれ?あれ?

可笑しいと私のどこかの脳みそは気付いてる。でも、駄目。指が勝
手に、勝手に?嘘だあ。
ああ、ああ、返信しなきゃ。

返信。

（後書き）

登場人物などにはあまり意味を込めていません。ただ、変な気味悪さや怠惰、現実と架空の境、曖昧な気違いを感じ取って下されば幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2323f/>

お題消化（返信シンドローム）

2010年10月10日05時22分発行